

飯塚市下水道事業におけるウォーターPPPの導入に向けた質問に対する回答

【 回 答 書 】

第1回更新分	質問① 【事前質問分】	下水道管路について、GISの導入状況や維持管理記録の整理状況
	回答①	電子化された管路台帳の運用を行っております。 また、維持管理記録の整理は行っておりません。
	質問② 【事前質問分】	特に管路施設について、常時監視が困難な施設がほとんどであるため、リスク分担をどのように考えられていますか。（特に性能発注に移行した場合）
	回答②	これからの検討となりますが、管路のリスク分担については設定が難しいと考えております。ガイドラインに示されているように、一旦仕様発注で対応し、状況を見ながら性能発注に移行することが現実的であると想定しています。
	質問③ 【事前質問分】	複数年契約にも関わらず、単年度予算上限に縛られてしまうと、民間側で業務量調整できず、自由度が少なく創意工夫が発揮できなくなる恐れがあるため、ご配慮いただきたい。
	回答③	単年度予算上限については、頂いたご意見を踏まえ、検討いたします。
	質問④ 【事前質問分】	プロフィットシェアについて、どのようにお考えでしょうか。あわせて業務実施時には公平なPSC・VFMの公表を希望します。
	回答④	○プロフィットシェアについては、WPPPの要件に含まれていますので、取り入れる方針ですが、運用方法については先進事例などを踏まえて今後検討いたします。 ○PSC・VFMの公表については、アンケートや個別ヒアリング等でご意見を伺った上で検討いたします。 ※PSC(Public Sector Comparator)：従来方式で実施した場合の総事業費 ※VFM(Value for Money)：WPPPを取り入れることによる費用効果

第1回 更新分	質問⑤ 【事前質問分】	地域企業の参画は重要であると考え、地域企業の意向や意気込みが重要な因子となります。 一方で、企業がPPP/PFIの趣旨を十分理解し、事業全体の最適化に寄与頂けるかが重要であると考えます。 スタート段階ではありますが、現時点での事業形態及び体制などの組み合わせについての展望をお聞かせ下さい。
	回答⑤	本市でも地元企業様の参画を重視しております。 現時点では、“処理場・ポンプ場・管路に係る全ての業務”および“脱炭素化事業(太陽光発電設備の設置・運用)”と“窓口業務”をウォーターPPPの対象としています。 先進事例やアンケート・個別ヒアリングでのご意見などを踏まえ、こういった形態が望ましいのか、検討してまいります。
	質問⑥ 【事前質問分】	管渠の課題設定と目標設定の中にマンホール及びマンホール蓋の設定もされていますか。
	回答⑥	現時点では、全て（管路・処理場・ポンプ場）の施設に係る業務をウォーターPPPに取り入れる前提で検討をしていますので、マンホール及び蓋も対象となります。